

[システムマネジメント学科]
明光学園高等学校 **アクティブ・ラーニング型**
高大連携講座を実施しました。



9月20日(火)、明光学園高等学校(以下、明光学園)の総合進学コース3年生32名と同校の教員2名が本学へ来校し、アクティブ・ラーニング(AL)型の高大連携講座を実施しました。

明光学園では、大学での体験を通じて高校での学びの意味づけを図る高大連携「キャンパスデザイン」講座を毎年実施しています。今回、その一環として本学情報工学部システムマネジメント学科の藤岡寛之教授との連携講座が実施されました。

講座タイトルは「データを見える化してストーリーを語る」。統計学によって医療に貢献したナイチンゲールを例に、(1)データの視覚化の方法と社会的・時代状況と関係づけられる、(2)グループで協働して発表できる、ことが到達目標として設定されました。本講座は、システムマネジメント学科がAL型初

年次導入教育として実施する科目「システムマネジメント基礎」と「確率統計 I」を基に、学生が主体的に『見る、聞く、調べる、考える』ことで統計学の枠組みを理解することを狙いとしています。講座の後半では、グループごとに「少子化」に関する実データのストーリーを語るべく視覚化を行い、ポスターとしてまとめ、本学学生および教職員に対して公開発表会を実施しました。自分たちで考えた仮説に基づき、データが物語るストーリーを身振り手振り加えながら懸命に説明する姿が印象的でした。なお、システムマネジメント学科では、情報技術という視点からグローバル化を意識「できる」力を養うことにも注力しています。本講座オープニングでは、本学国際戦略室の米国人職員 Janelle Chang から野球統計学“セイバーメトリクス”を題材として英語での「概要の書き方」を学びました。その学びから、ポスター発表会ではすべてのグループが英語でデータのストーリーを伝えることもできました。



福岡工業大学 AL 型授業推進プログラム
<http://www.fit.ac.jp/ap/about/>

本講座を受講した生徒の皆さんの感想を一部ご紹介

- ・英語などがとてもむずかかったのですが、大学生の方たちがわかりやすくアドバイスなどしてくれたのでよかったです。グラフを作るのも楽しかったです。人に伝えるのは難しいと感じました。
- ・意見を一つの紙にまとめる難しさを感じました。統計学を使うことでいろいろなことがわかりやすくなるのだと思いました。ありがとうございました。